

# 祖先は道を拓き峠を越え、 水と戦い、甲斐に歴史と文化を 伝えた。

山梨の古道は昔から甲斐九筋(若彦路・中道往還・駿州往還・鎌倉街道・秩父往還・青梅街道・穂坂路・逸見路・棒道)といわれ、人々は生活のために急峻な地形を克服して道を拓き、暮らしと豊かな文化をこの山国に育んできました。いま、その古道は役割を終え、多くは近代的な道路に生れ変わり、産業や経済・レジャーなど快適な生活文化をもたらしました。

しかしその街道筋を歩くと、私たちの祖先が営々と築いてきた、独特の文化遺産や民族の温もりが私たちの心に呼びかけてくれます。

この古道地図にあなただけの夢を忍ばせて、街を訪ね野山をめぐり、甲斐の道を再発見しましょう。

---

#### 参考・引用文献

山梨県歴史の道調査報告書  
山梨県歴史の道ガイドブック

発行：山梨県教育委員会  
発行：山梨県教育委員会

# 古道



- 甲州街道
- 西郡路
- 佐久往還
- 若彦路
- 中道往還
- 駿州往還
- 鎌倉街道
- 秩父往還
- 青梅街道
- 穂坂路
- 逸見路
- 棒道

# 国道



# 駿州往還



駿州往還は甲府から昭和町・玉穂町・田富町・三珠町・市川大門町とほぼ現在の県道市川大門下部身延線に沿って割石峠を越えて六郷に入り、六郷町で富士川を渡って右岸へ到ったが、富士川舟運が開始されると鯉沢を経由するようになった。

経路は田富町布施で古道と分かれ旧若草町、旧甲西町(南アルプス市)を経て、増穂町青柳で現在の国道52号に合流し鯉沢町へ入りそのまま南下しほぼ現在の国道52号沿いを進み駿河国へ向かう道筋となっている。

日蓮宗総本山である身延山久遠寺への参詣路として栄え「身延路」とも呼ばれている。また、駿河の海産物を運ぶ道として大いに栄え文化財等も数多くある。

## 駿州往還の起点を探して …相生1丁目の道標(甲府市)

現在の国道52号、旧甲州街道の甲府市相生1丁目3番1号の角に『西しんしゅうみち、南みのぶみち』の石碑がある。これは新しいものであるが、第二次世界大戦以前にこの場所にあった道標を復元したものである。



この道標で甲州街道と分かれて駿州往還は始まり、現在の飯豊橋よりやや下流の渡し場『西条の渡し』を渡り南進することとなる。



## 駿州往還の面影を探して…鯉沢宿

約7百年前に日蓮上人が開いた身延山へも舟運が便利で、鯉沢は宿場町としても栄えた。

明治期には生活物資の出入りはもとより、船を利用しての身延参詣の泊り客でたいへん賑わった。

繁栄を極めた富士川舟運であったが、明治44年の中央本線の開通により物資の輸送が鉄道へと移り、3百年の歴史を閉じることになる。



## ■門前町の賑わいは今も「身延山詣」

甲斐百八霊場のひとつ、身延山久遠寺は日蓮宗の総本山として、今も参詣の人が絶えない賑わいがあり、門までの道沿いには土産物屋や旅館、名物の湯葉の店が並ぶ。長い正面の階段は287段、360年ほど前に佐渡の信者が先祖の菩提を弔うために発願、数代にわたって完成させたものといわれる。左手には男坂、右手には女坂があるので、健脚ならずとも緑深い山へ入る道はある。

ロープウェイで奥の院まで足を伸ばすと、日蓮上人お手植えの杉を仰ぎ見ることができる。見晴台から望む七面山には守護神が祀られている。身延山とこの山を結ぶ参道の途中には赤沢宿があり、中世集落の面影ある民家が重要伝統的建造物保存地区として残されている。



## コラム

# 歴史と文化遺産

こちようぜん  
古長禪寺

三門までの1kmほどの道筋はかつての門前町で、土産物屋、旅館など今もにぎわいを見せている。古長禪寺は深向院から国道52号をさらに北に1.5kmほど進み、少し東に入った閑静な場所にある。

旧客殿の四隅に植えられたという樹齢600年と推定される大ビャクシンがある。これは夢窓国師手植えの四つの白壇と呼ばれて国の天然記念物となっている。武田信玄は幼い頃、母の大井夫人に伴われて時の住持岐秀について参禅した。大井夫人が亡くなったあと、信玄は躑躅ヶ崎館近くに新たな長禪寺を建立して母の菩提寺としたので、ここは古長禪寺と呼ばれるようになっていく。



ないせん  
内船寺

鎌倉武士であった四条金吾頼基が日蓮を慕ってこの地に移り住み、建治3年(1277)邸内に3間(5.5m)四面の持仏堂を建てたのにはじまる。この寺には高さ28.8cmの小さな梵鐘(半鐘)がある。この内側には20種類の葉の調合法がかかれていて、寺ではその葉を四条金吾殿伝法の「半鐘葉」として戦前まで全国に販売していたとされる。



蹴沢河岸の面影



蹴沢河岸と富士水碑



富士水碑



ほうぜん  
法善寺

南アルプス市加賀美にある古刹。ここは中世、甲斐源氏の一族である加賀美氏が興った地であり、その祖・加賀美遠光の館跡に建つ法善寺は甲斐の真言寺院を代表するものの一つとされている。今から1200年前の大同元年(806)に大坊(現北杜市)に開創したのが始まりとされる。



なんぶ し  
南部氏館跡

南部氏は甲斐源氏の一族である加賀美遠光の子光行がこの地の所領を得て南部を名乗ったことに始まる。文治5年(1189)光行父子は源頼朝に従い奥州藤原氏征伐に参加、戦功を立て奥州に所領を与えられたが、これを機に光行は奥州に下向、甲斐南部氏は子実長が継ぐことになる。



かしかざわ か し  
蹴沢河岸

今から4百年前、徳川家康の命を受けた京都の角倉了以によって富士川が開削され、蹴沢から駿河の岩淵(静岡県富士川町)まで開通した。西郡路と駿州往還の交わる地点に位置していた蹴沢は、この開削により富士川舟運の要衝地、蹴沢河岸として流通の拠点として大きく発展することになる。